

科目コード N-306	専門分野 基礎看護学臨地実習	単位数	必修 1単位
授業科目名	基礎看護学実習1	時間数	45時間
担当教員	専任教員	開講時期	1年後期
授業概要			
基礎看護学実習1では、対象者を受け持ち、コミュニケーション技術を用いて対象者と援助的関係を形成する。対象者の健康状態と日常生活を観察し療養生活の実際を知り、健康障害が対象者に及ぼす影響や健康課題について理解し全体像の把握につなげる。看護倫理を基本とした姿勢で行動し、対象者の安全・安楽・自立に向けた看護援助の実際について学習する。			
到達目標			
1. 対象者を尊重し良好なコミュニケーションをとり、人間関係を形成することができる。 2. 健康障害による日常生活上の苦痛や困難を理解することができる。 3. 対象者の自立に向け、ニーズを充足できるように、安全・安楽に援助できる。 4. 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢で行動できる。 5. カンファレンスに積極的に臨み、学習につなげることができる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している <input checked="" type="checkbox"/> 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
病棟実習1日目	教員のオリエンテーション 臨地実習指導者のオリエンテーション 学生2人で1人の対象者を受け持ち、コミュニケーションをとり関係性を形成する 健康状態と日常生活を観察し、療養生活の実際を知る 健康障害による苦痛や日常生活上の困難を理解する 毎日カンファレンスを実施する	臨地実習	南奈良総合医療センター、吉野病院、五條病院
病棟実習5日目 学内実習	リフレクションを行い、自己を内省する 実習のまとめと学びの共有	学内実習	教室1、演習室
実習時間	病棟実習 5日 8:45～15:45(昼休憩60分)8時間×5日 学内実習 1日 8:45～14:40 5時間 合計45時間		
準備学習等			
既習の基礎看護学に関して、実習中に活用できるようにまとめておく。また、受け持ち対象者に関する発達段階や課題、疾患に関する解剖生理・病態生理・検査・治療・看護について実習前、実習中に必要に応じて日々学習して臨地実習に臨む。			
成績評価方法	実習時間の4分の3以上の出席を持って単位認定の評価対象とする。 実習要項の実習目標目標と評価の視点にそって総合的に行う。		
テキスト参考書	臨地実習要綱、臨地実習経験録、基礎看護学実習1要項・ガイダンス eテキスト)基礎看護技術Ⅰ・基礎看護技術Ⅱ eナーストレーナー)[基礎・臨床看護技術]第1章 環境調整技術、第11章 症状・生体機能管理技術、第12章 感染防止の技術 ビジュラン)看護学生のための始めて実習ガイド CKS)看護イラスト解説 基礎看護学 看護がみえる)③フィジカルアセスメント、④看護過程の展開など		
受講要件・備考			

科目コード N-307	専門分野 基礎看護学臨地実習	単位数	必修 2単位
授業科目名	基礎看護学実習2	時間数	90時間
担当教員	専任教員	開講時期	2年前期
授業概要			
医療機関で療養生活行っている対象を受け持ち、アセスメント、健康課題の抽出、看護計画の立案、実施、評価を行う一連の過程を学習し、個別性に応じたケアについて理解する。看護倫理を基本とした姿勢で行動し、対象の安全・安楽・自立にむけた看護を実践し評価する。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学生として対象に関心を寄せ、相互作用を通して良好な関係を形成することができる。 2. 対象の健康状態、日常生活に必要な援助をアセスメントし、全体像を捉えることができる。 3. 個別性のある日常生活援助を考え、実施した援助を振り返り翌日の援助に活かすことができる。 4. カンファレンスに主体的に臨み、必要な学習を継続的に行うことができる。 5. 看護学生として看護倫理を基本とした姿勢で行動することができる。 6. メンバーシップ、リーダーシップを発揮し、自己の課題を明確にすることができる。 			
ディプロマポリシーとの関連性			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している <input checked="" type="checkbox"/> 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
1日目	学内実習。教員のオリエンテーション	学内実習	教室2
2日目	臨地実習指導者のオリエンテーション	臨地実習	病棟
	学生2人で1人の対象を受け持ち、コミュニケーションを取り相互作用を通して良好な関係を形成する。	臨地実習	病棟
	対象の健康状態、日常生活に必要な援助をアセスメントし、全体像を捉える	臨地実習	病棟
～	全体像を捉え、健康課題の抽出、科学的根拠に基づいた個別性のある看護計画の立案と実践と評価を行う。	臨地実習	病棟
11日目	カンファレンスに主体的に取り組み、グループでの学びを深める	臨地実習	病棟
	リフレクションを行い、自己を内省する。	学内実習	教室2
12日目	実習のまとめと学びの共有		
実習時間	病棟実習 10日 学内実習 実習前・後2日		
準備学習等			
既習の基礎看護学に関して、実習中に活用できるようにまとめておく。また、受け持ちの対象に関する発達段階や課題、疾患に関する解剖生理学・病態生理学・検査・治療・看護について実習前、実習中に必要に応じて日々学習して臨地実習に臨む。			
成績評価方法	実習時間の4分の3以上の出席を持って単位認定の評価対象とする。 実習要項の実習目標目標と評価の視点にそって総合的に行う。		
テキスト 参考書	臨地実習要覧・基礎看護学実習要項 看護がみえる)③フィジカルアセスメント、④看護過程の展開		
受講要件	基礎看護学実習1を修得していること		
・備考			

科目コード N-308	専門分野 広がる場での看護：地域・在宅看護論臨地実習	単位数	必修 1 単位
授業科目名	地域・在宅看護実習 1	時間数	4 5 時間
担当教員	専任教員	開講時期	1 年前期
授業概要			
企業団の病院が位置する地域で生活する人々をフィールドワークをとおして理解する。南和地域住民の生活を守る保健・医療・福祉の連携や専門職種の連携による医療の提供に関心をよせ、自己の学習課題を明確にし、継続的に学習できる姿勢を身につける。			
実習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 五條市、大淀町、吉野町地域の特性と住民の生活、地域住民の特徴を知る。 2. 看護学生としての倫理を基本とした姿勢で行動する。 3. 専門職の連携により、医療が提供されていることを理解する。 4. 病院・居宅の環境を理解する。 5. カンファレンスに積極的に臨み、学習につなげる。 			
ディプロマポリシーとの関連性			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している <input checked="" type="checkbox"/> 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
1 日目	臨地実習にあたってのオリエンテーション	学内実習	教室 1
2 日目	地域の特性と住民の暮らしについてフィールドワークを通じて理解する	臨地実習	病院
3 日目	1. 南奈良総合医療センター 見学実習	臨地実習	病院
4 日目	2. 吉野病院見学実習	臨地実習	病院
5 日目	3. 五條病院見学実習	臨地実習	病院
6 日目	8 時 4 5 分～1 4 時 4 5 分時まで見学実習を行う。 1 4 時 4 5 分からカンファレンスを行う 実習のまとめと学びの共有	学内実習	教室 1
	学内実習 5 時間 フィールドワーク 8 時間 病院見学 24 時間 学内実習 8 時間		
準備学習等			
初めての臨地実習のため、実習実習要綱をしっかりと理解確認し毎日学習目標をもち積極的に臨む。			
成績評価方法	実習時間の4分の3以上の出席を持って単位認定の評価対象とする。 実習要項の実習目標目標と評価の視点にそって総合的に行う。		
テキスト 参考書	医学書院 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基礎		
受講要件			
・備考			

科目コード N-309	専門分野 広がる場での看護:地域・在宅看護論臨地実習	単位数	必修 1単位
授業科目名	地域・在宅看護論実習2	時間数	45時間
担当教員	専任教員	開講時期	3年前期
授業概要			
介護老人福祉施設で実習を行う。 多くの高齢者とのコミュニケーションを通して、施設を利用する高齢者を理解し、多職種連携の実際および看護師の役割と機能を理解する。			
到達目標			
1. 施設の概要と高齢者の福祉と保健について説明できる。 2. 高齢者の機能に適したコミュニケーション方法を工夫して実践できる。 3. 高齢者のライフサイクルの視点から、健康上の課題と援助について説明できる。 4. 施設における各職種の役割と職種間の協働・連携の重要性を説明できる。 5. 専門職業人としての責務を自覚し、学習課題を明確にし主体的に学び続けることができる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している <input checked="" type="checkbox"/> 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみずえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
1日目 2日目 ～ 4日目 5日目	臨地実習にあたってオリエンテーション 介護老人福祉施設での実習 祥水園・まきの苑・美吉野園のいずれか 各フロア・デイサービス、1日ごとに見学実習の場所を交代し、施設で生活する高齢者と看護師の役割を理解する 実習のまとめと学びの共有	学内実習 臨地実習 臨地実習 臨地実習 臨地実習 学内実習	学校 介護老人福祉施設 介護老人福祉施設 介護老人福祉施設 介護老人福祉施設 学校
実習時間	施設実習 9:00～16:45(昼休憩60分含む) 4日 学内実習 9:00～16:00 (昼休憩60分含む) 2日		
準備学習等			
高齢者の特徴、医療・福祉・介護と多職種連携について学習して臨む。 積極的にコミュニケーションをとり、対象を理解できるように積極的に学ぶ。			
成績評価方法	実習時間の4分の3以上の出席を持って単位認定の評価対象とする。 実習要項の到達目標と評価の視点にそって総合的に行う。		
テキスト 参考書	臨地実習要覧・地域・在宅看護実習要項 照林社:看護学生のための臨地実習ナビ、eテキスト:基礎看護技術Ⅰ・基礎看護技術Ⅱ、		
受講要件 ・備考	基礎看護学実習2を修得している		

科目コード N-310	専門分野 広がる場での看護:地域・在宅看護論臨地実習	単位数	必修 2単位
授業科目名	地域・在宅看護論実習3	時間数	90時間
担当教員	専任教員	開講時期	3年前期・後期
授業概要			
在宅療養者に対する看護および様々な地域看護活動への参加を通して、在宅療養者とその家族に対する看護の実践的能力の基本を習得するとともに、地域看護を総合的に学ぶ。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 在宅療養者とその家族の健康課題を把握し、必要な看護の実践と見学を通し、在宅看護における実践的能力の基本を学ぶとともに在宅看護の役割、機能を理解できる。 市町村保健福祉センターにおける地域住民に対する様々な保健・医療・福祉サービスに参加し、地域における看護職の役割を理解できる。 在宅看護の管理・調整を行う看護職の役割を理解し、保健・医療・福祉の連携と地域におけるケアシステムの意義と実際を理解できる。 実習を通して専門職業人としての姿勢や態度で行動できる。 			
ディプロマポリシーとの関連性			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している <input checked="" type="checkbox"/> 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
1日目 ～ 11日目	臨地実習にあたってオリエンテーション 健康福祉センター・訪問看護ステーション・地域連携室 各施設での実習を行う	学内実習 臨地実習 臨地実習 臨地実習 臨地実習	学校 健康福祉センター 訪問看護 ステーション 地域連携室
12日目	実習のまとめと学びの共有 リフレクションを行い、自己を内省する。	学内実習	学校
実習時間	9:00～16:00 8時間×9日＝72時間(施設実習) 9:00～14:30 8時間×3日＝24時間(学内実習)		
準備学習等			
事前学習として、関連教科書・関連実習要項、実習記録の確認をして授業に臨む。 事後学習として、関連内容の復習をして知識の定着に努める。			
成績評価方法	実習時間の4分の3以上の出席を持って単位認定の評価対象とする。 実習要項の到達目標と評価の視点にそって総合的に行う。		
テキスト 参考書	臨地実習要覧・基礎看護学実習要項 (医学書院)地域・在宅看護論:1地域・在宅看護の基礎、2地域・在宅看護の実践		
受講要件	基礎看護学実習2を修得している		
・備考			

科目コード N-312	専門分野 生涯発達支援領域 成人老年看護学臨地実習	単位数	必修 2単位
授業科目名	健康状態別看護実習	時間数	90時間
担当教員	専任教員	開講時期	2年後期
授業概要			
<p>南奈良総合医療センター・吉野病院・五條病院のいずれかで、対象者を受け持ち看護過程の展開を行う。対象者を生活者としてアセスメントし、健康課題の抽出、個性に応じた科学的根拠に基づいた看護計画を立案する。看護計画に基づき、対象者の状態や場に応じた看護の実践と評価を行う。対象者に応じた、看護の方法を意欲的に考える姿勢、看護とは何かを問い続ける姿勢を身につける。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者及び家族を生活者として捉え、積極的に関心を持ち援助的関係が形成できる。 2. 対象者の尊厳と権利をまもり、倫理に基づき行動できる。 3. 看護を展開する上で必要な情報を収集し、計画を立案し、対象者の反応を確認しながら健康課題を解決するための看護が実践できる。 4. 看護学生として専門職種役割と機能を理解し協働できる。 5. 専門職業人としての責務を自覚し、主体的に学び続けることができる。 			
ディプロマポリシーとの関連性			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している <input checked="" type="checkbox"/> 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
学内実習1日目	実習を円滑に行うためのオリエンテーション	学内実習	学校
病棟実習1日目 ～ 10日目	<p>実習で提供する看護のエビデンスを確認するための文献検索 対象への看護技術を提供するための演習 臨地実習指導者のオリエンテーション 学生1人で、対象を受け持ち看護過程の展開を行う 対象と援助的関係を形成する 生活者としてアセスメントし、健康課題の抽出を行う 健康課題ごとに、個性のある看護計画を立案する 看護計画に基づいた実践と評価、看護の改善を行う 対象者に応じた、看護の方法を意欲的に考える姿勢、看護とは何かを問い続ける姿勢を身につける リフレクションを行い、自己を内省する</p>	<p>臨地実習 臨地実習 臨地実習</p>	<p>南奈良総合 医療センター 吉野病院 五條病院 のいずれか</p>
学内実習2日目 実習時間	<p>実習のまとめと学びの共有 病棟実習:10日 1日8時間 8:45～15:45 (昼休憩60分) 学内実習:2日 1日5時間 8:45～12:30</p>	学内実習	学校
準備学習等			
<p>既習の基礎看護学に関して、復習および技術練習をしておく。また、受け持ちの対象者に関する発達段階や課題、疾患に関する解剖生理学・病態生理学・検査・治療・看護について、実習前や実習中に必要に応じて学習して実習に臨む。</p>			
成績評価方法	<p>実習時間の4分の3以上(68時間)の出席を持って単位認定の評価対象とする。 実習要項の実習目標と評価の視点にそって総合的に行う。</p>		
テキスト 参考書	<p>eテキスト、eナーstreiner、ビジュアル、CKS、 看護がみえる③フィジカルアセスメント、看護が見える④看護過程の展開 など</p>		
受講要件 ・備考	<p>基礎看護学実習2を修得していること</p>		

科目コード N-313	専門分野 生涯発達支援領域 成人老年看護学臨地実習	単位数	必修 2単位
授業科目名	慢性期看護学実習	時間数	90時間
担当教員	専任教員	開講時期	3年前期・後期
授業概要			
慢性疾患による健康障害を有する対象者または中途障害にある対象者、終末期看護が必要な対象者に対して、健康問題を理解し、健康レベルに合わせた看護援助が実践できる能力を養う。とくに、慢性疾患の自己管理能力において不可欠であるセルフケア能力の向上ならびに社会生活の適応のための患者教育のプロセスについて、受け持ち患者の看護をとおして学習する。終末期看護においては、ターミナル期にある対象者と家族の特徴を理解し、クオリティ・オブ・ライフ(QOL)を高めるための援助について学習する			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者及び家族を生活者として捉え、積極的に関心を持ち、援助的関係が形成できる。 2. 対象者の尊厳と権利を守り倫理に基づき行動できる。 3. 看護を展開する上で必要な情報を収集し、計画を立案し、対象の反応を確認しながら看護問題を解決するための看護が実践できる。 4. 地域包括ケアシステムの観点から多様な場における、看護の役割を考え協働できる。 5. 専門職業人としての責務を自覚し、主体的に学び続けることができる。 			
ディプロマポリシーとの関連性			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している <input checked="" type="checkbox"/> 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみずえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
学内実習1日目 病棟実習1日目 ～ 10日目	実習を円滑に行うためのオリエンテーション 対象者への看護技術を提供するための演習 臨地実習指導者のオリエンテーション 学生1人で1人の対象者を受け持ち、コミュニケーションを取り 相互作用を通して援助的関係を形成する 対象の健康状態、日常生活に必要な援助をアセスメントし、 全体像を捉え、健康課題の抽出、科学的根拠に基づいた 個別性のある看護計画の立案と実践と評価を行う カンファレンスに主体的に取り組み、グループでの学びを 深める リフレクションを行い、自己を内省する	学内実習 臨地実習 臨地実習 臨地実習 臨地実習	学校 南奈良総合 医療センター 五條病院 吉野病院 のいずれか
学内実習2日目 実習時間	実習のまとめと学びの共有 病棟実習:10日 1日8時間 8:45～15:45 (昼休憩60分) 学内実習:2日 1日5時間 8:45～12:30	学内実習	学校
準備学習等			
既習の基礎看護学に関して、実習中に活用できるようにまとめておく。また、受け持ちの対象に関する発達段階や課題、疾患に関する解剖生理学・病態生理学・検査・治療・看護について実習前、実習中に必要に応じて日々学習して臨地実習に臨む。			
成績評価方法	実習時間の4分の3以上の出席を持って単位認定の評価対象とする。 実習要項の到達目標と評価の視点にそって総合的に行う。		
テキスト 参考書	eテキスト、eナーstreiner、ビジュアル、CKS、 看護がみえる③フィジカルアセスメント、看護が見える④看護過程の展開 など		
受講要件 ・備考	基礎看護学実習2を修得していること		

科目コード N-314	専門分野 生涯発達支援領域 成人老年看護学臨地実習	単位数	必修 2単位
授業科目名	急性期看護学実習	時間数	90時間
担当教員	専任教員	開講時期	3年前期・後期
授業概要			
クリティカルケアを必要とするような生命の危機状態にある対象者に対して、入院前の生活から大きく変化する身体的・心理的・社会的状態に応じた看護が実践できる基礎能力を養う。急激に生命を脅かす重度の侵襲に伴う身体面や心理面の変化を捉え、生体反応を緩和し、回復過程を促進し、現在ある機能を最大限に高める援助について科学的根拠に基づいた看護実践の実際を学ぶ。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 急性期から回復期にある対象者及び家族を生活者として捉え、積極的に関心を持ち、援助的關係が形成できる。 対象者の尊厳と権利を守り倫理に基づいた行動ができる。 看護に必要な情報を収集し、健康課題の抽出、看護計画立案、対象者の反応を確認しながら健康課題を解決するための看護ができる。 地域包括ケアシステムの観点から多様な場における、看護の役割を考え協働できる。 専門職業人としての責務を自覚し、主体的に学び続けることができる。 			
ディプロマポリシーとの関連性			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している <input checked="" type="checkbox"/> 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみずえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
学内実習1日目	実習担当教員のオリエンテーション	学内実習	学校
半日ずつ 見学実習	対象者への看護技術を提供するための演習 救急外来の臨地実習指導者のオリエンテーション・見学実習 中央診療部門の臨地実習指導者のオリエンテーション・見学実習	臨地実習	救急外来 中央診療部門 南奈良総合 医療センター
病棟実習1日目	病棟の臨地実習指導者のオリエンテーション 学生1人で1人の対象者を受け持ち、コミュニケーションをとり相互作用を通して援助的關係を形成する		
～	対象者の健康状態、日常生活に必要な援助をアセスメントし、全体像を捉え、健康課題の抽出、科学的根拠に基づいた個別性のある看護計画の立案と実践、評価を行う		
9日目 学内実習2日目	カンファレンスに主体的に取り組み、グループでの学び深める リフレクションを行い、自己を内省する 実習のまとめと学びの共有	学内実習	学校
実習時間	実習で提供する看護のエビデンスを確認するための文献検索 病棟実習：9日、救急外来：0.5日、中央診療部門：0.5日 1日8時間 8:45～15:45(昼休憩：60分) 学内実習：2日 1日5時間 8:45～12:30 合計90時間		
準備学習等			
既習の基礎看護学に関して、実習中に活用できるようにまとめておく。また、受け持ちの対象者に関する発達段階や課題、疾患に関する解剖生理・病態生理・検査・治療・看護について実習前、実習中に必要に応じて日々学習して臨地実習に臨む。			
成績評価方法	実習時間の4分の3以上の出席を持って単位認定の評価対象とする。 実習要項の到達目標と評価の視点にそって総合的に行う。		
テキスト 参考書	eテキスト、eナーストレーナー、ビジュアル、CKS、看護がみえる③フィジカルアセスメント④看護過程の展開 など		
受講要件 ・備考	基礎看護学実習2を修得していること		

科目コード N-315	専門分野 生涯発達支援領域 成人老年看護学臨地実習	単位数	必修 2単位
授業科目名	周術期看護学実習	時間数	90 時間
担当教員	専任教員	開講時期	3年前期・後期
授業概要			
手術療法を受ける対象者に対して、入院前の生活から大きく変化する術後の身体的・心理的・社会的状態に応じた看護が実践できる基礎能力を養う。手術侵襲や全身麻酔の影響に伴う身体面や心理面の変化を捉え、回復過程を促進し、可能な限り入院前の生活に復帰するための援助について科学的根拠に基づいて看護実践の実際を学ぶ。			
実習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 周術期にある対象者及び家族を生活者として捉え、積極的に関心を持ち、援助的関係が形成できる。 2. 対象者の尊厳と権利を守り倫理に基づいた行動ができる。 3. 看護に必要な情報を収集し、健康課題の抽出、看護計画立案、対象者の反応を確認しながら健康課題を解決するための看護ができる。 4. 地域包括ケアシステムの観点から多様な場における、看護の役割を考え協働できる。 5. 専門職業人としての責務を自覚し、主体的に学び続けることができる。 			
ディプロマポリシーとの関連性			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している <input checked="" type="checkbox"/> 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみずえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
学内実習1日目 午前 午後 実習2日目 病棟実習1日目 病棟実習9日目 学内実習2日目 実習時間	実習担当教員のオリエンテーション 対象者への看護技術を提供するための演習 手術室の臨地実習指導者のオリエンテーション・見学実習 HCUの臨地実習指導者のオリエンテーション・見学実習 病棟の臨地実習指導者のオリエンテーション 学生1人で1人の対象者を受け持ち、コミュニケーションをとり相互作用を通して援助的関係を形成する 対象者の健康状態、日常生活に必要な援助をアセスメントし、全体像を捉え、健康課題の抽出、科学的根拠に基づいた個別性のある看護計画の立案と実践、評価を行う カンファレンスに主体的に取り組み、グループでの学び深める リフレクションを行い、自己を内省する 実習のまとめと学びの共有 実習で提供した看護のエビデンスを確認するための文献検索 病棟実習：9日、HCU：1日、学内実習：2日（手術室：0.5日を含む） 1日8時間 8:45～15:45（昼休憩：60分） 学内実習2日目のみ2時間 8:45～10:15 合計90時間	学内実習 手術室 HCU 病棟実習 学内実習	学校 南奈良総合 医療センター 学校
準備学習等			
既習の基礎看護学に関して、実習中に活用できるようにまとめておく。また、受け持ちの対象者に関する発達段階や課題、疾患に関する解剖生理・病態生理・検査・治療・看護について実習前、実習中に必要に応じて日々学習して臨地実習に臨む。			
成績評価方法	実習時間の4分の3以上の出席を持って単位認定の評価対象とする。 実習要項の到達目標と評価の視点にそって総合的に行う。		
テキスト参考書	eテキスト、eナーストレーナー、ビジュラン、CKS、看護がみえる③フィジカルアセスメント④看護過程の展開 など		
受講要件・備考	基礎看護学実習2を修得している		

科目コード N-311	専門分野 生涯発達支援領域 精神看護学臨地実習	単位数	必修 2単位
授業科目名	精神看護学実習	時間数	90時間
担当教員	専任教員	開講時期	3年前期・後期
授業概要			
<p>病院および地域で生活する精神に障がいのある人々とその家族との関わりを通して、心を病むことで生じる日常生活や対人関係の困難さを理解する。保健医療福祉チームの活動に参加し、精神に障害のある対象の看護に必要な知識、技術、態度を学ぶ</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障がいのある人に関心を持ち、治療的関わりを通して対象を理解できる。 2. 精神に障がいがある人の疾病や看護の経過を理解し、その人らしく生活できるよう必要な援助が実践できる。 3. 精神に障がいのある人との関わりを通して自己理解を深めることができる。 4. 精神医療における看護の役割と機能を理解できる。 5. 多職種連携による医療機関での支援、地域移行支援および地域で支援の実際を学ぶことができる。 6. 看護学生として看護倫理を遵守し、専門職業人としての姿勢を持ち行動できる。 			
ディプロマポリシーとの関連性			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している <input checked="" type="checkbox"/> 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみずえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
学内実習1日目 病棟実習1日目 ～ 10日目 学内実習2日目 実習時間	<p>臨地実習にあたっての教員オリエンテーション 臨地実習指導者のオリエンテーション 学生1人で1人の対象を受け持ち、コミュニケーションを取り相互作用を通して援助的関係を形成する。 対象の健康状態、日常生活に必要な援助をアセスメントし全体像を捉え、健康課題の抽出、科学的根拠に基づいた個別性のある看護計画の立案と実践と評価を行う。 カンファレンスに主体的に取り組み、グループでの学びを深める リフレクションを行い、自己を内省する。 実習のまとめと学びの共有</p> <p>病棟実習10日 1日8時間 8:45～15:45 学内実習 2日 1日5時間 8:45～12:30</p>	<p>学内実習 臨地実習</p> <p>学内実習</p>	<p>学校 万葉クリニック</p> <p>学校</p>
準備学習等			
<p>疾患、薬物療法について学習しておく。プロセスレコードの書き方、コミュニケーションの技法について復習しておく。自分のコミュニケーションの傾向に気づき改善し、良い関係性を築けるように努めましょう。</p>			
成績評価方法	<p>実習時間の4分の3以上の出席を持って単位認定の評価対象とする。 実習要項の到達目標と評価の視点にそって総合的に行う。</p>		
テキスト 参考書	<p>臨地実習要綱、精神看護学実習要項・ガイダンス eテキスト、eナーstレーナー、CKS、ビジュアル、公衆衛生がみえる</p>		
受講要件 ・備考	<p>基礎看護学実習2を修得していること</p>		

科目コード N-316	専門分野 次世代支援領域 臨地実習	単位数	必修 2単位
授業科目名	母性看護学実習	時間数	90時間
担当教員	専任教員	開講時期	3年前期
授業概要			
<p>周産期の母子の身体的・心理的な特徴を理解し、母子の健康課題の解決、健康の維持・強化の為の看護を学び、母性看護の基礎的な実践能力を養う。また、地域における母子保健活動の実際を学び、継続した看護の必要性を理解する。</p>			
実習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦・産婦・褥婦の身体的・心理的・社会的変化および経過を理解できる。 2. 妊婦・産婦・褥婦の健康課題の解決、健康の保持増進に向けた援助ができる。 3. 新生児の特徴を理解し、胎外生活に適応できるよう援助できる。 4. 地域における母子保健活動の必要性を理解し実際を学ぶ。 5. 妊娠・出産・子育ての地域包括支援事業の実際を学び施策について考察できる。 6. 母子保健活動と多職種連携について考察できる。 7. 女性のライフサイクルにおける保健活動の実際を知り、必要な援助を考え健康増進活動に参加できる。 8. 実習経験を通して自己の親性・生命観を発展することができる。 9. 実習を通して専門職業人としての姿勢や態度を養うことができる。 			
ディプロマポリシーとの関連性			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している <input checked="" type="checkbox"/> 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみずえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
1日目	学内実習	学内実習	学校
2日目	病棟実習	臨地実習	奈良県立医科大学 附属病院
3日目	病棟実習	臨地実習	
4日目	病棟実習	臨地実習	
5日目	病棟実習	臨地実習	
6日目	病棟実習	臨地実習	
7日目	病棟実習	臨地実習	
8日目	病棟実習	臨地実習	
9日目	病棟実習	臨地実習	
10日目	NICU見学実習	臨地実習	
11日目	保健福祉センター	臨地実習	
12日目	学内実習	学内実習	学校
時間・日数	学内実習：9:00～13:45 5時間 2日間 病院実習：8:45～15:45 8時間 9日間 保健福祉センター：9:00～16:00 8時間 1日間		
準備学習等			
目標達成に向け、実習要項の一般目標、学習内容を学習して臨む。母子の看護の考え方や看護過程の展開について復習しておく。母性特有の看護技術を練習して、安全なケアができるように努めましょう。			
成績評価方法	実習時間の4分の3以上の出席を持って単位認定の評価対象とする。 実習要項の到達目標と評価の視点にそって総合的に行う。		
テキスト 参考書	臨地実習要覧・母性看護学実習要項 母性看護学概論・母性看護学各論・ブックライブラリー(母性看護技術・母性看護過程) 実習補完教材(母性看護学実習)		
受講要件 ・備考	基礎看護学実習2を修得していること		

科目コード N-317	専門分野 次世代支援領域 臨地実習	単位数	必修 2単位
授業科目名	小児看護学実習	時間数	90時間
担当教員	専任教員	開講時期	3年前期・後期
授業概要			
保育園実習で、小児に接する体験を通してその特性を理解する。その経験を活かして病棟実習では、患児とその家族の発達段階を見極め、健康回復につなげられるよう意図的・計画的看護を学ぶ。			
実習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもとの関わりや観察から年齢に応じた成長・発達の実際や特性を理解できる。 2. 個別に応じた適切なコミュニケーションにより良好な関係を築くことができる。 3. 子どもをひとりの人間として尊重し、倫理に基づいて看護を実践する。 4. 健康課題をもつ子どもの全体像を把握し、看護課題を明確にできる。 5. 子どもと家族の成長・発達の促進と健康を意識し、個性を考慮した看護援助を実践できる。 6. 小児保健・医療・福祉の役割を理解し、多職種連携について考え協働できる。 7. 専門職業人としての責務を自覚し、主体的に学び続けることができる。 			
ディプロマポリシーとの関連性			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している <input checked="" type="checkbox"/> 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみすえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
1日目	臨地実習にあたっての教員オリエンテーション	学内実習	学校
2日目 ～ 11日目	保育園実習（3日間）：花吉野えんめい保育園 病棟実習（7日間）：南奈良総合医療センター	臨地実習	保育園 病院
12日目	実習のまとめと学びの共有	学内実習	学校
実習時間	・臨地実習 保育園 8:30～15:30 8時間×3日間＝24時間 病棟 8:45～15:45 8時間×7日間＝56時間 （昼休憩60分） ・学内実習 8:45～12:30 5時間×2日間＝10時間		
準備学習等			
子どもの成長・発達について理解して臨む。小児特有の疾患や、治療が子供に与える影響について復習して臨む。小児特有の看護技術を練習して、安全なケアができるように努める。			
成績評価方法	実習時間の4分の3以上(68時間)の出席を持って単位認定の評価対象とする。実習要項の到達目標と評価の視点にそって総合的に行う。		
テキスト参考書	臨地実習要覧、小児看護学実習要項・ガイダンス 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論、小児臨床看護各論(医学書院)など関連教科書 eナーストレーナー：小児看護過程、小児看護技術など ビジューラン：看護教育シリーズ 小児看護学実習、小児への経口与薬、小児看護技術 健康保健シリーズ 目で見える子どもの保健、子どもの発達と支援、乳幼児の発達と保育		
受講要件・備考	基礎看護学実習2を修得していること		

科目コード N-318	専門分野 看護の統合と実践 臨地実習	単位数	必修 1単位
授業科目名	統合実習	時間数	90時間
担当教員	専任教員	開講時期	3年後期
授業概要			
専門分野までの実習の学びを統合し、看護チームの一員として複数患者の受け持ちを通して、看護実践能力を身につける。看護専門職としての役割を理解し、自覚と責任感を養う。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者を受け持ち、援助の優先順位を判断し、看護が実践できる。 2. 看護チームのメンバーやリーダーの役割及び多職種との連携を通して、チーム医療における看護師の役割について理解できる。 3. 診療の補助技術の実施を通して、正確で安全であることの重要性を理解し、医療安全に対する認識を高める。 4. 夜勤帯の看護師の役割を理解できる。 5. 実習を通して、専門職業人としての姿勢や態度を養う。 			
ディプロマポリシーとの関連性			
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 人間の生活を理解するための基礎知識、生活者の健康を支援するための専門的知識を習得している <input checked="" type="checkbox"/> 2. 生命の尊厳と権利を擁護する倫理観、価値観を尊重したコミュニケーション技法を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 3. あらゆる健康の状態にある人々の健康課題を解決するために、根拠に基づいた看護を計画的に実践できる基礎的能力を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 4. 地域社会の健康課題を把握し、他の医療・保健・福祉の専門職者と協働し、対象者及び家族への支援に関する基礎知識を身につけている <input checked="" type="checkbox"/> 5. 専門職業人としての責務を自覚し、継続的に学習する力と自己のキャリア形成をみずえ社会に貢献する意欲を持っている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
1日目	臨地実習にあたっての教員オリエンテーション	学内実習	学校
2日目	病棟実習	臨地実習	病棟
3日目	病棟実習		
4日目	病棟実習: 複数患者の受け持ち		
5日目	病棟実習: 複数患者の受け持ち		
6日目	病棟実習: 複数患者の受け持ち		
7日目	病棟実習: 複数患者の受け持ち		
8日目	病棟実習: 複数患者の受け持ち		
9日目	病棟実習: 夜間実習		
10日目	病棟実習: リーダーシャドウ		
11日目	病棟実習: 専門職連携		
12日目	実習のまとめと学びの共有 病棟実習 学内実習	学内実習	学校
準備学習等			
専門職連携についてそれぞれの職種の役割と機能を復習して臨む。毎日目標を明確にして臨む。			
成績評価方法	実習時間の4分の3以上の出席を持って単位認定の評価対象とする。 実習要項の到達目標と評価の視点にそって総合的に行う。		
テキスト 参考書	臨地実習要綱、統合実習要項・ガイダンス eテキスト、eナーストレーナー、ビジュラン、CKS		
受講要件	基礎看護学実習2を修得していること		
・備考			